



高木 まさき
(横浜国立大学 教授)

対談

青山 由紀
(筑波大学附属小学校 教諭)

青山 全国学力調査でいうと「B問題」が活用力をみる問題と言われますが。

高木 より活用的な問題がB問題で、より知識・技能習得的な問題がA問題、というくらいに考えたほうがよいでしょう。活用場面面で習得していくこともあり得るからです。

新しい学習指導要領に見られる「読むこと」の活用力

高木 新しい学習指導要領の「読むこと」で着目すべき点は、大きく四つあると思います。一つ目は、「言語活動例」です。言語活動を通して、知識・技能も身につけることを前提にしているので、活用の中で習得的な学習をしていくことが考えられます。「習得」と「活用」を別々のものと考えるのではなくて、両方の行き来があるような学習スタイルが望ましいところです。

青山 その行き来があるから、言語活動例が内容の中に組み込まれたと言っているのでしょうか。

高木 そうですね。活動だけができればいいのではなく、活動を通して、何を身につけるのかという意識が常にならないといけません。そ



特集

「読むこと」の活用力を考える

新しい学習指導要領では、国語科で習得した知識・技能を活用して、各教科等での言語活動の充実を求めています。発表などの表現活動では、習得したことを活用する場面が多く見られますが、「読むこと」を活用する学習はあまり知られていません。

今回の対談では、「読むこと」の活用力をどのような場面で育てていくのか、どのような知識・技能を活用するのか、などについてお二人の先生に語り合っていました。

活用力とは

青山 最近、「活用力」という言葉をよく聞きます。そもそも「活用力」とは何でしょうか。

高木 「活用」については、中教審答申(二〇〇八年二月)に「各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要があります。」とあります。身につけた知識・技能を使いこなす力を「活用力」と考えるところからやりやすいかもしれません。

青山 それが「習得―活用―探究」という学習プロセスの中心になるのですね。

高木 そうです。各教科の学習プロセスの中心に置かれていて、それが総合的な学習の時間の、課題解決的な学習や探究的な活動につながっていく。それが「習得―活用―探究」の原則的なイメージです。しかし、「習得する学力」と「活用する学力」とは、明確に線引きできるものではありません。そういう単純なものではなくて往還運動も当然必要になると思います。

「習得」と「活用」、両方の行き来がある学習スタイルが望ましいですね。

高木 まさき (たかぎ まさき)

静岡県生まれ。横浜国立大学教育人間科学部教授。中央教育審議会国語専門部会委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。著書に『「他者」を発見する国語の授業』(大修館書店)、『合科的・総合的な学習のための読書関連単元100のプラン集』(共編著東洋館出版社)などがある。光村図書小学校・中学校国語教科書編集委員を務める。



「読むことの活用力」を考える

もすべての指導事項を扱う必要はありません。ただこうやって並んでいることで、その意味がわかりやすい。少なくとも先生はそれをわかって指導することが大切です。

また、従来見えにくかった説明的な文章の指導事項と文学的な文章の指導事項が、明確に示されているのも今回の特徴です。

青山 確かに、新しい学習指導要領解説国語編の三四ページを見るとよくわかります。大きな特徴ですね。

高木 三つ目は、「自分の考えの形成と交流」です。例えば、本を読んだり、映画を見たりして何か思ったら、それを口にして他人と意見交流するのが普通ですが、学校の授業の中ではあまりやってこなかった。しかし、PISA調査によつてそういう活動が見直されて、とてもよかったです。交流する良さは他人の考え方を知って、それを受け止める力が付くことだと思います。自分の読み方以外の読み方もあるのだと気づく。

青山 子どもは二つの側面で読んでいくので、違う観点の読み方を身につけさせるためには交流が必要ですね。確かに、交流は手立てとしてはとても良いのですが、評価が難しいです。

高木 そうですね。しかし、根拠が言えるための読みの力がついていないと、言える子と言えない子が出てしまい、結局、交流になりません。だから、根拠が言えるだけの読む力を、ステップを踏んで身につけさせたものです。また、先生が最後に子どもたちの交流を整理してあげることも大切です。

青山 「自分の考えは変わらなかったけれど根拠が増えた」とか「考えがゆれた」とか、交流する前と後の様子がノートなどに残せると、評価しやすいですね。

高木 四つ目は「目的に応じた読書」です。今までも、読書については、本や文章を選ぶなどいろいろな活動がありました。今回は、言語活動例の「エ」や「オ」でしっかり出てきます。また、指導事項になった以上、指導して評価しなければいけません。例えば、図書室に子どもを連れて行って放つておくわけにはいけません。もし放つておくなら、意図的にやらなければいけないということです。

青山 今まで以上に、読書は意図的な指導が求められるわけですね。

高木 例えば、文学の学習の交流としたら、主人公は何歳だとか、このときの状況はどうだったのかとか、まず内容確認のために話し合います。次に、よつて違いが出てきます。主人公の気持ちはどうだったのかと

考えるときに、いろいろな感じ方ができます。わたしはそれを「感情の束」と呼んでいます。交流では、「感情の束」が確認できればいい。そして、そう感じた根拠を話し合いたいですね。それは文章からでもいいし、人がこういう状況に置かれたらこういう気持ちを持つだろう、という自分の生活体験を持ち出してもよいと思います。感情の根拠がどこからきているのかを明確にすることで、「感情の束」に何本の筋があったかが確認できます。結論だけでなく、そう感じた根拠を交流することが大事だと思います。

青山 根拠を自分の言葉で表現することに、ウエイトを置いて評価するということでしょうか。

高木 何となく本を読むというのももちろんあつてもいいのですが、生活で生かされるような読書を経験させる。「目的に応じた読書」の「目的に応じた」という言葉は「働く、生活に生きる」ということだと思います。

青山 教科の枠を超えて、言語生活とか、読書生活とか、子どもの生活の中にしっかりと落とし込んでいくことでしょうか。

高木 そうですね。中学校第三学年の言語活動例の「ウ」を見ると、「自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。」とあります。新聞やインターネットなどを含む自分の読書生活を振り返り、これからどうしていかうかと考えられるレベルまで、義務教育の最終段階でもつていきたいと思います。

青山 最終的にそこを目指すために、小学校の段階では、もっと見通しを立てた方がいい。小学校までは「目的に応じた読書」で、中学校からは「読書と情報活用」になるわけではなく、六年生になったら、情報活用を意識した読書にするなど、中学校を見すえた活動を設定する必要があるということです。



違う観点の読み方を身につけさせるためには交流が必要です。

青山 由紀 (あおやま ゆき)

東京都生まれ。筑波大学附属小学校教諭。全国国語授業研究会常任理事、使える授業ベーシック研究会常任理事などを務める。著書に『話すことが好きになる子どもを育てる』(東洋館出版社)、『子どもを国語好きにする授業アイデア』(学事出版) などがある。光村図書 小学校国語教科書編集委員を務める。

教科書教材で育てる

「読むことの活用力」

青山 「読むことの活用力」を、教科書に掲載されている教材名を挙げてお話ししたいと思いますか。

高木 例えば、わかりやすいのは、「すがたをかえる大豆」(三下)でしょう。大事なことは、どういう順序で説明されているのかということです。説明する順番が、煮たり焼いたりといった形のあるものから、粉にひいたりといった形のないものになっていきますね。それは物を見るとききの観点になり、活用できるのではないのでしょうか。

青山 中学年は、事例の選択や順序性を考えられる時期です。しかし、どんな事例を選択して、どういう順序で説明したらいいのか考えられるようにするには、読むだけでは難しいかもしれません。書いていく中で初めて気づくことが多いような気がします。

高木 確かにそうですね。学習の場では、習得的な知識も、活用する中で再発見されて、生かされて身につけていく。

「読むことの活用力」を考える

青山 実際に授業をして面白いと思ったのが、子どもたちが読んだときに気になった言葉と、書こうと思ったときに気になった言葉が違うということ。書こうと思って、教材文を読むと、気になる言葉が違ってくるんです。

高木 文章を書くときに、こういう順番で書いたらいいか意識させることは大切です。例えば「アップとルーズで伝える」(四下)も面白い教材で、わたしは、「ふきのとう」(二上)に通じるのを感じます。

青山 「ふきのとう」ですか？

高木 冒頭では、ふきのとうが芽を出すという小さい部分を見ている。それが森全体を見るようになって、最後はわっと世界が広がる。あれは春が訪れたという広がる気持ちと運動しながら視野が開けていくわけです。これは「アップとルーズ」の見方に通じるのではないのでしょうか。

青山 なるほど。二年生で「ふきのとう」を学習すると、子どもは、ふきのとうになりきってしまいます。しかし、中学年以上になると、書き手になって考えられる。書き手は、ここをクロージアップして書きたいという意識が出てきます。二年生で読んだ教材を、四

他教科に生かす「読むことの活用力」

高木 説明文の構造は、いろいろなところに活用できるのかなと思います。

青山 基本的に説明文の構造は「序論―本論―結論」とすっきりしています。序論で問題提起し、本論では事例を出すか、内容説明をすることになる。小学校の説明文というのは、事例を通して何かを訴えたいのか、答えそのものを内容として説明したいのか、どちらかだと思います。

高木 例えば、「人と『もの』との付き合い方」(五上)には、「ごみ問題ってなあに」という資料が入っています。始めは、自分たちの身の回りの生活について述べ、そこから江戸時代に遡って、次に海外について述べている。説明文の述べ方を学ぶにはよい教材ですが、残念ながら、ただの資料として使われるケースも多いようです。

青山 三年以上の教科書には、一つの資料が入っています。この資料の述べ方の工夫には着目させたいですね。また、説明文の読みの学習は、「書くこと」だけでなく、プレゼンテーションとか、ガイドブック、レポートなど、他教科にも生かすことができます。

年生の「アップとルーズ」の後に読んだら、読み方は全く違ってくるかもしれません。教科書の順番どおりにただ教えるのでは、今更とあまり変わりません。学年間で縦断的に教科書を見直していけないといけませんね。

高木 「大造じいさんとガン」(五下)は、動物は人間に近い面をもっている、という話です。他の学年で、動物が登場する教材は、「スイミー」(二上)や「ごんぎつね」(四下)が挙げられますが、「スイミー」や「ごんぎつね」は、動物というより、子どもが親しみやすいキャラクターですね。しかし、「ガン」は、動物でないといけないわけです。

青山 人間と動物との関係が書かれた文章だから、動物が擬人化されていない。

高木 そうです。「大造じいさんとガン」では、動物は人間に近い面をもっているねと、上からみているけれども、「やまなし」(六下)や「海の命」(六下)では、生命という大きな世界にもついでついでしています。

青山 既習教材は、他学年の教材として使えますね。年齢が変わって、考え方や観点が変わると、今まで読んできたものが違った見え方をする。子どもにとっては面白いこと

活用力を生かせる子どもに育てる

青山 「読むことの活用力」が身につくと、どんないいことがあるのでしょうか。

高木 例えば、「わらくつの中の神様」のような「ものの見方」を知っていると、家にある古いものに良さを感じたりして、「ものの見方」が豊かになります。わたしたちは物理的にものを見ているのではなく、コップ一つでも、そこに何かを感じて物語を重ねて見えています。その重ねている物語の数が多ければ多いほど豊かになる。すると、自分が得をするわけです。ただ修行のように読むのではなくて、読み取ったことを生かし、それが楽しいという経験ができるような学習の場を作ってほしいと思います。

また、学習を振り返ることも大切ですね。今日読んだ物語が自分の生活の中でどう生きてくるのか。そう考えられることが、新しい学習指導要領のねらいでもあります。過去の教科書を引っ張りだしてきて教えるといった、今使っている教科書だけで学習は終わらないという考えを持つことが、先生方には必要になってくると思います。

青山 子どもには、学んだことを生かすというのことを、自覚させなければいけないように

だと思っています。

高木 例えば、物語構造が同じものを探してみようとか、引っ張りだして読む動機づけができますね。ある程度、抽象化しないと物語構造は見えてこないですから、物語を抽象化してとらえる学習にもなるわけです。

青山 「場面」の学習でも、学年間の縦断的な見方は大事ですね。「大きなかぶ」(二上)は、「二人ずつ増えていく」ので場面がわかりやすい。「お手紙」(二下)は時間で変わっていきます。「ちいちゃんのかげおくり」(三下)も時間で変わっていきますが、最後に何十年も隔たるといって、同じ場所が時代を隔てて描かれています。同じことが「二つの花」(四下)でも言えますね。「わらくつの中の神様」(五下)になると、現在―過去―現在という箱型構造になります。

思います。

高木 メタレベルで、学習を見つめる目が大事です。読み取ったことを生かして何かができるから読み取ることが身につくし、読み取ることが大事だという実感も持てるのです。それが自覚というものです。

青山 うまくいかないときに、もう一回、前に戻って何が大事だったのか考えたり、前に勉強したことなどを見直したらいいのかと考えることができると、学び方が身につく。それが「活用力」となるでしょうね。

高木 活用力は、知識・技能をただ活用するだけではなくて、活用知のようなものがあるのです。知っていれば使えるのではなく、実際に使ってみるうちに、知識の使い方を知るといって、それはやはり試行錯誤を重ねたときに、効果的に身につくと思っています。





「読むこと」活動系統表

筑波大学附属小学校教諭 青山 由紀

新しい学習指導要領解説では中学3年までを見通せる系統表が示されています。そこで系統的な指導ができるように、現在の教科書教材の指導内容を表に記しました。「読むこと」領域内でのつながりと、「読むこと」を表現（「話す・聞く」、「書く」）につなげた場合を挙げています。学習したことを活用しながら新たな教材に取り組むようにしたいものです。

【表の見方】

教材	じどう車くらべ
読むこと	○問いと答え 「どうぶつの 赤ちゃん」1下、「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「かむ」ことの力」4上 ほか ○比較思考（共通の観点で読む） 「どうぶつの 赤ちゃん」1下 ★調べるために読む（図鑑など）
表現	○組み立てを考えた文（図鑑作り） ★観察記録（説明のしかた、原因結果「そのために」・生活科：町探検） ★算数（比較思考）

○ は指導内容です。

「 」は関連教材です。

★ は国語科以外の活動とのつながりです。

	教材	はなの みち	いろいろな くちばし	大きな かぶ	じどう車くらべ	くじらぐも	どうぶつの 赤ちゃん
1年	読むこと	○音読（会話文） 「くじらぐも」1下、「ふきのとう」「スイミー」2上 ほか ○場面の様子 「おむすび ころりん」「大きな かぶ」1上、「くじらぐも」「たぬきの 糸車」1下 ほか	○問いと答え 「じどう車くらべ」1上、「どうぶつの 赤ちゃん」1下、「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「かむ」ことの力」4上	○音読（繰り返しやリズム） 「くじらぐも」1下、「ふきのとう」2上 ほか ○場面の様子 「くじらぐも」1下、「ふきのとう」2上 ほか ○読書（繰り返しのあるお話）	○問いと答え 「どうぶつの 赤ちゃん」1下、「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「かむ」ことの力」4上 ほか ○比較思考（共通の観点で読む） 「どうぶつの 赤ちゃん」1下 ★調べるために読む（図鑑など）	○音読（声の大きさ・会話文・繰り返し） 「ふきのとう」2上 ほか ○場面の様子 「ふきのとう」2上 ほか ○同じ作家の読書（「ぐりとぐら」など）	○問いと答え 「サンゴの海の生きものたち」2上、「ありの行列」3上、「かむ」ことの力」4上 ○順序（時間） ○比較思考（共通の観点で読む） ○事例の選択 ★調べるために読む（図鑑など）
	表現		○問いと答え（これは～です。） 「わたしは、なんでしょう」1下 ★観察記録（説明のしかた、様子を表す言葉・生活科）	○劇化（特別活動）	○組み立てを考えた文（図鑑作り） ★観察記録（説明のしかた、原因結果「そのために」・生活科：町探検）	○音読劇 ★劇化（特別活動）	○説明の順序を考えた文（図鑑、クイズ作り） ★時系列での説明（生活科：成長記録）
2年	教材	ふきのとう	たんぼぼの ちえ	スイミー	サンゴの海の生きものたち	お手紙	一本の木
	読むこと	○音読（会話文） 「スイミー」2上 ほか ○場面の様子 「スイミー」2上、「お手紙」2下 ほか	○順序（時間） 「サンゴの海の生きものたち」2上、「一本の木」2下 ○ほかの「たんぼぼの ちえ」を調べて発表する	○場面の様子（想像豊かに） ○音読（声の大きさ・会話文・繰り返し） ○登場人物に手紙を書く ○同じ作家の読書	○順序（事柄） 「一本の木」2下 ○問いと答え 「ありの行列」3上、「かむ」ことの力」4上 ★調べるために読む（図鑑など）	○場面の様子（登場人物の姿容） 「三年とうげ」3上 ○登場人物へ手紙を書く ○シリーズ本を読む	○順序（事柄、手順） ○絵と文章をあわせて読む
	表現	○順序（時間） 「こんなお話を考えた」2下	○記録文 「かんざつ名人に ならう」2上 ★観察記録（生活科）	○順序（時間） 「こんなお話を考えた」2下 ★劇化（特別活動）	○組み立てを考えた文（図鑑作り・生き物カード）	○創作文を書く	★おもちゃ作り（生活科・図工：説明書を読む） ★説明のしかた
3年	教材	きつぎの商売	ありの行列	三年とうげ		ちいちゃんのかげおくり	すがたをかえる大豆
	読むこと	○音読（場面の様子が見えるように） ○擬音語 「森へ」6上 ○場面の違い ○シリーズ本を読む	○問いと答え 「かむ」ことの力」4上 ○段落の役割（意味段落） ★調べ学習（理科）	○民話・昔話を読む（外国の作品・とんち話など） ○読んだ本を紹介する 「白いぼうし」4上		○場面の移り変わり 「一つの花」4下 ○戦争を題材とした本を読む ○感想交流（自分の読み） ★戦争や昔のことに調べる（資料・インタビューなど）	○段落相互の関係（意味段落・説明しやすい順序） 「かむ」ことの力」4上 ○事例の選択や順序 ○調べるために読む（図鑑・事典） ★本の探し方、調べ方を知る（図書館利用、理科、社会、総合など）
	表現	○続き話の創作（同じ構成で書く）	○段落の役割 「おもしろいもの、見つけた」3上、「せつめい書を作ろう」3下 ★報告書（社会）、実験観察記録（理科）	★劇化（特別活動）		★戦争についての新聞作り、発表など ★昔のくらし（社会）	○文章構成の中で事例を挙げて書く（食べ物についての説明文作り、★食育） ○課題設定のしかた（マッピング）
4年	教材	三つのお願ひ	「かむ」ことの力	白いぼうし		一つの花	アップとルーズで伝える
	読むこと	○音読（会話文・心情の表現） ○登場人物の性格、気持ちの変化 「ごんぎつね」4下 ○登場人物の心情を行動や会話から読み取る ○感想交流（自分の読み）	○問いと答え ○段落のつながり ○要約する 「サクラソウとトラマルハナバチ」5上 ★人の体のつくりと運動について調べる（理科）	○叙述を基に想像して読む（ファンタジー） 「森へ」6上、「やまなし」6下 ○感想交流（表現の工夫） ○シリーズ本を読む ○読んだ本を紹介する ★色彩表現を読む（図工）		○場面の移り変わり ○題名の表現する意味 「カレライス」6上、「やまなし」6下 ○戦争を題材とした本を読む ○感想交流（自分の読み） ★戦争や昔のことに調べる（資料・インタビューなど）	○段落相互の関係（問いと答え、意味段落、説明のしかたの工夫） ○伝えたいことの中心を読む ○写真と文章をあわせて読む 「千年の釘にいどむ」5上、「森へ」6上 ○編集意図を考えて読む 「ニュース番組作りの現場から」5下 ○調べるために読む（図鑑・事典）
	表現		○段落の役割（意味段落） 「生活を見つめて」4下 ★調べたことを報告書にまとめる（理科、社会、総合など）			★戦争についての新聞作り、発表など ★昔のくらし（社会）	○写真などを効果的に使い学級新聞などを書く ○書こうとすることの中心を明確にして書く
5年	教材	新しい友達	サクラソウとトラマルハナバチ	千年の釘にいどむ		わらぐつの中の様	ニュース番組作りの現場から
	読むこと	○音読（会話文・心情の表現） ○登場人物の相互の関係から性格、気持ちの変化を読み取る（視点人物、鍵となるものなど） 「わらぐつの中の神様」5下、「カレライス」6上	○問いと答え ○要旨をとらえ自分の考えをもつ 「生き物はつながりの中に」6上 ○事実、感想、意見を読み分ける ○感想交流（筆者の意見）	○感想交流（ドキュメンタリーを読んで自分の生き方を考える） ○読書会をひらく（ドキュメンタリー作品） ○写真と文章をあわせて読む 「ニュース番組作りの現場から」5下、「森へ」6上		○登場人物の相互の関係から性格、気持ちの変化や生き方を読み取る（優れた叙述やキーワードとなるものなど） 「カレライス」6上 ○作品の構成（現在―過去―現在）	○目的に応じて文章の内容を押さえる ○写真や図版と文章をあわせて読む 「森へ」6上 ○編集意図を考えて読む（時系列に沿った文） ★情報産業、放送、新聞など（社会）
	表現	○意見文を書く（筆者の考え、述べ方の工夫など） 「人と「もの」との付き合い方」5上、「生き物はつながりの中に」6上	○創作文を書く（表現の工夫など） 「物語を作ろう」5下 ★地域のものづくりについての調査、発表（総合、社会）			○続き話を書く ★方言について調査、発表する（総合） ★雪国のくらし（社会）	○ニュース番組を作る（目的に応じて考えたことや伝えたいことを発表する） ○資料や図表を使って考えが伝わるように書く ○資料を提示しながら説明する
6年	教材	カレライス	生き物はつながりの中に	森へ		やまなし	平和のとりでを築く
	読むこと	○登場人物の相互の関係から性格、気持ちの変化を読み取る（視点人物、鍵となるものなど） ○翻作（視点を変えて日記や物語に書きなおす） ○感想交流（考えを広げたり深めたりする）	○問いと答え ○要旨をとらえ自分の考えをもつ ○事実、感想、意見を読み分け文章全体の構成を把握する ○感想交流（筆者の意見、述べ方、事例の取り上げ方など）	○五感の表現をとらえ情景の美しさを読む 「やまなし」6下 ○読書会をひらく（テーマ、表現、ジャンルなど） ○写真と文章をあわせて読む ○効果的な表現の工夫を読む		○心情や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について考えをまとめる ○題名の表現する意味 ○作者の生き方（伝記）とあわせて作品を読む ○同じ作者の本を読んで推薦の文章を書く ★色彩表現を読む（図工）	○事実と感想、意見などとの関係から筆者の考えをとらえ、自分の考えを明確にしながら読む ○目的に応じて複数の文章を比べて読む（書籍、新聞、雑誌、パンフレット、ホームページなど） ○自分の課題解決のために意見を述べた文章や解説の文章などを利用する。 ★情報の真偽やモラルについて知る（総合、社会）
	表現	○創作（自分の「カレライス」を書く）	○意見文を書く（筆者の考え、述べ方の工夫など）	○写真と文章をあわせたドキュメンタリーを発表する ○作品のテーマに対しての鑑賞・感想文を書く		○朗読発表会を行う ★幻灯のBGMを考える（音楽）	○媒体にあわせた表現方法や構成を考えて発信する ★平和について調べ、自分の意見を発表する（総合、社会）